
組織への一步

菜花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

組織への一歩

【Nコード】

N4232C

【作者名】

菜花

【あらすじ】

ある日コナンの携帯に一通の電話が：はたして誰から？この話しは、連載中『コナン対組織』に続いています。こちらをみてから連載を見ていただいたほうが分かりやすいと思います。

（前書き）

初めてです…なので自身がありません読みましたら評価ください

ある日コナンに灰原からの電話が入った。

「もしもし、灰原か？どうした？」

「組織の情報が入ったの…」

「何？！ほんとかそれ？！」

「ええ。だから今から博士の家にきてくれないかしら？」

「ああ…わかった」

そしてコナンは探偵事務所を飛び出し博士の家に向かった。

（なんなんだ組織の情報ってまさかアジトが…）

そんなことを考えながらコナンは全力で走った。

「博士の家」

…バン…

コナンはいきおいよくドアを開けた。

「灰原いるか？！！」

「ええ…中に入って…」

「ああ」

コナンは博士の家に入り、玄関前でコナンは尋ねた。

「んで、情報と言うのは？」

「これよ」

…シャコ…

灰原はコナンに向けて銃を構えた。

「え…おまえ」

「動かないで！動いたらどうなるか…分かるわよね…名探偵さん？」

灰原は不適な笑みとともにコナンに銃口をむけた。

「おまえ…どうしたんだよ…何があったんだよ……！言えよ……！」

コナンは焦りながらも冷静を保とうとしたがあまりの現状で、冷静

など保つことなど不可能に近かった。

「あらわからない？ 私は貴方を裏切り組織に入った…これまでの私は偽りなの…わかったかしら？」

灰原は意味深き笑みでコナンに銃口を合わせる。

「今までが偽り…んなわけ…」

今まで一緒組織を潰す計画をしていたあの頃を偽りといわれコナンは動揺を隠せなかった。

「あるのよ！！世の中こんなものよ？」

「じゃね…バイバイ名探偵さん？」

灰原の話しが終えた瞬間、銃声が響いた。

「……………」

弾はコナンの腕をかすめ、よろけ玄関にもたれかかった。

コナンは顔をゆがめながらも灰原を見つめ思った。

（え？なんだ…いつもと様子が違うような…）

コナンは思いきって聞いてみた。

「おまえ…誰だ…？」

「灰原哀よ？それがなに江戸川君？」

そこへ地下から聞きなれた声が響いた。

「逃げて工藤君…！」

その声の主である灰原が息をきらしながら立っていた。

「チィ！失敗か！」

そして灰原になりすましていた人物が、コナンに向かって三発の銃を放ち素早く立ち去っていった。

「……………」

三発撃った弾の二発はコナンの肩と右足に一発ずつ当たっていた。

「ど、どうして？ どうして逃げなかったの…？」

「こ、これを…アイツに…つけたくてな…」

コナンはそう言い終わると気を失った。

「ちょっと工藤君！！？これって発信器と盗聴器じゃない！！！」

そう、コナンの手のひらにあったのはボタン型の盗聴器と発信器だった。

「何無茶してるのよ!!」

灰原はテキパキと怪我の治療を進めて、ベッドに寝かせた。

（二時間後）

「うう…はい…ばら？痛っ」

「工藤君？大丈夫？？」

「あ、あぁなんとか」

「あなた無茶すぎよ…下手したら死んでたかもしれないのよ？わかつてるの？自分がしたこと？何ヒーローみたいな事してるのよ」

「まあまあ、落ち着いて哀君」

博士が止めにはいるが灰原の気持ちを押さえる事は出なかった。

「博士はだまつて！これ以上貴方に何かあつたら…」

次の言葉をいかけたときコナンが遮った。

「ごめん灰原」

「わかつてるならいいわ、今後無茶だけはしないで！今日は寝なさい。今日起きた事は明日にでも話すから蘭さんにもいっておくから」

「悪い灰原…」

そのままコナンは眠りについた。

「全くなに考えてるのよ」

心配しながらコナンに布団をかけなおした。

そして組織への一步を踏み出し始めたコナンたち!!

(後書き)

どうでしたか？

これは続き物です

これから連載を作ろうかと思っています
よろしくお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4232c/>

組織への一步

2011年1月27日00時21分発行